



韓国政府、建設労組に謝罪と恩赦

●有罪判決受けた組合員の名誉回復と復権も

9月27日韓共同シンポジウム前日の意見交換会で、カン・ハンス建設労組事務処長は日本側参加者に、イ・ジェミン大統領誕生後の8月、韓国政府が建設労組に対する前政権の弾圧について謝罪していたことを明らかにした。



カン・ハンス事務処長によれば、8月13日夜、「建設労働者の名誉と被害回復討論会」が国会議員会館で開かれ、出席したキム・ヨンファン雇用労働部長官が「大韓民国政府を代表して、前政府時代、労使間の法治主義という名目で行われた労働弾圧に労働者と労働組合、遺族、そして被害を受けた人々に心から謝罪する」と話し、壇上から深々と頭を下げたという。(写真左)

また、一連の弾圧事件では、恐喝、強要、威力業務妨害などの容疑で取り調べを受けた組合員は2,250人にものぼる。657人が起訴され、43人が身体拘束を受けたが、有罪判決を受けた組合員については名誉回復と復権の措置がすでに取られ、拘束中だった4人の組合員も独立記念日特別赦免で8月15日に釈放されている。

*写真は8月14日付京郷新聞(左から2人目がキム長官)

